

辰巳会だより

新年例会

☆昭和四十二年一月二十六日

☆大阪堂島川畔ロイヤルホテル
暦の上では四、五日前から大寒に入ると云うのに、茲数日来、遽かに寒さが和らいで春先を思はせる様な快い天気がつづいて居る。暖さの故にもしやと懸念された雨気の心配もなく眺え向きの例会日和となった。由来、我が辰巳会の会合には只一つの例外を除いた他、何時の会にも不思議な程天候には恵まれて来た。

定刻前、早くも各地から熱心な会員諸子が陸續として参集せられる。会場は名にし負う大阪随一の社交場、絢爛豪華を誇る、ロイヤルホテル。演出効果に不足はない。控室の「桔梗の間」では新年の交歓を兼ねて賑やかな談笑の渦が、あちこちで湧き上る。本日の出席者一五名、幸先のよい盛況気分は漸く頂点に達して行く。処一時過ぎ、殆どの顔が揃った外でホール「菊の間」に着席、木畑幹事より参集各位に謝辞、並に開会を宣する。

劈頭高畑会長、温顔に喜色をたえて新年の第一声を呼びかけられる。会員の健康を喜び、今年は

鈴木商店解散四十周年を迎えた事の意義を語り、日本及び世界経済を展望してその所懐と抱負を力強くも淡々として述べらる。そして今尚経済界の第一線に活躍せらるる会員諸子に期する処大なるを望み話を結んで、万雷の拍手の裡に着席せられる。次いで小野幹事登壇、会務報告及び今年の企画等について詳細に説明、特に次の要点に就いて(一)鈴木商店解散四十周年記念行事として四月五日全国大会を開催、当日六甲祥竜寺に於て物故者慰露法要を執行、それより中山手相楽園にて宴遊会。(二)記念事業として祥竜寺境内に供養塔を建立。(三)この基金募集の為何分の御協力を仰ぎ度い。旨説明と賛意を囀つた処満堂の拍手を持って賛意を得た物の如く、それを以て降壇それより午餐に移った。この時本会の長老浅田長平氏卒如として来場、氏は此の朝東京より帰神せられ直に神戸商工会議所に顔を出され重要案件を処理後、寸暇を割って本会の為に御来席を頂いたのであった。誠に感激と申上げる他言葉がない。そして席のあたたまる間もなく立つてはとばしるが如くその経論をとうとうと述べられる奔放不羈、時に政府要人の消極策を叱り罵るは関西財界の構想本年の施策を語り、しばらくは満堂を魅了聴く者をして胸のすく思いを

与えられた。以上を以てプログラムを終りしばらく歓談の時を移して閉会となる。ホールを退出した会員は参々伍々、ロビーや各種コーナー等で改めて少憩、近い日の再会を約して散会して行った。特に本日の庄巻は神戸製鋼所の社長

新年宴会での感想

久 琢 磨

控室に入ると外島神鋼社長が「随分たくさん集りますね」と感嘆「老いさきが短いから、今のうちに、できるだけ昔の旧友に逢っておきたいと思っているでしよう、僕等も早や稀寿を越え、後は両手の指で数えられるのが関の山だから」こんな会話の最中続々と集って来られるは平均七十才なかにも高畑、永井の最長老は既に八十路の坂を越している。或は米寿も近いかも知れない、かくしやくとして談論風発するお元気をみれば、米寿よりもさらに白寿(九十九)のお祝いも不可能ではない。われら末輩は、いくつでもこのご高齢にあやかりたいと祈った。

幹事から故西川翁以下鈴木に一生を捧げて、一足さきに他界された方々、またこれかう続かれる方

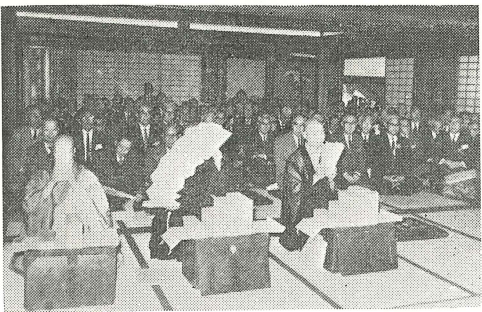
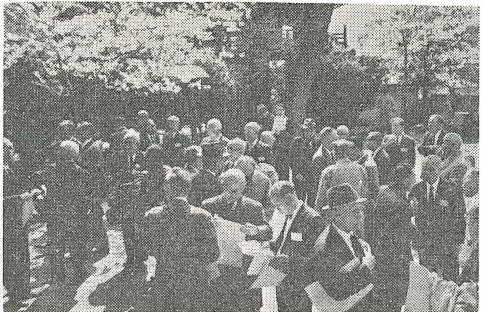
副社長他首脳陣が大挙して御参列下さった事であった。予々本会の為に並々な御支援を頂き且つ絶大な御愛心をよせ頂き本日の会には貴重な時間を御繰り合せ頂き、誠に会を挙げて謝意を表するものである。(K)

最後に立った浅田長老のお元気が工業界論には敬服しました。故金子さんも拍手を送っておられると思つて感慨無量でした。但し結論の労働問題では一寸一言。かつて終戦のとき浅田社長は「労働者は帯で集めるくらいありあまっている。これからはこの優待のための厚生部とか配給はいらぬから廃止する。」と断言されました。これに對し当時勤労、厚生部長であった私は断固として反対し、身をもってこれを守り之の責任を背負って自ら身を引いて土佐の辺境に都落ちした。今浅田さんのお説をきき乍ら當時を想起し、時勢の変遷とはいえないあと驚きいまして早くこれを予想してくれていたらなあとまた感慨を深くしました。

陽春五月ごろ鈴木を興した真柱

辰巳会全国大会

☆昭和四十二年四月五日



☆於 六甲祥竜寺 中山手相楽園
その日の感激を静かに噛みしめ消えかかる余韻を今一度反芻しつつ当日の記に筆を進める。茲六甲祥竜寺の庭に踵を接して集う者二百有余名、遠く関東、中部、四国九州その他の各地よりはるけくも来り集う。

鈴木商店解散四十周年を記念する全国大会である。数日来風雨の荒れるにまかせた料峭八荒は曉方からうそのように晴れ上り陽光は燦々として境内におしみなく照りそそぐ。今を盛りの桜の花も一きわ照り榮え話題の花も一しきり随所に咲き乱れる。莫もあらばあれ会員一同の注視は等しく境内の一所に凝集された。本堂の脇巨石の台座に凜然と端座しなますお家様の胸像は、今日の子の集りを何如にみそなわして在まそうや。仰ぎ見れば温顔から今にも笑がこぼれんばかり。我等が心の母なる御姿に共感はとどめなく湧き上る。御像は「昭和二年五月建之」とある。御遷座以来九十四年、時の施主高畑誠一氏発意の程もうかがい知り茲にも輪廻生起の大業を教えられる。

御像の脇を伺候するように金子柳田両柱の彰徳碑が石ぶみも鮮かに読む人々に大なる息吹きを感じ

させられる。程もなく定刻を打つ魚板と太鼓の音に一同参観着席、菅宗信禪師、一山の衆侶を引具して須弥壇に礼拝愈々、鈴木商店在職物故者の慰露大法要を執行せられる。豪拓莊重極らない大般若經六百軸の転読奉誦、四百六十五の先亡諸精霊位を呼ぶ導師の声は満堂を圧し肅としてしわぶきもな

い。やがて高畑会長は除に歩を運んで献花の礼を捧げられる。印象的な時が胸に沁み入るよう流れた。結修を告げる太鼓の音、こうして法要は滞りなく終った。

恒例の記念写真を撮る。一同は三々伍々差廻しのバス四台に分乗して第二会場相楽園に向った。(此処は元神戸市長小寺謙吉氏の邸宅、神戸市へ寄贈、後新しく会議室風の建物を新築、庭園は「さつき」の名所として有名)

饗宴に先立ち小野幹事の挨拶及び会務を報告特に四十周年記念行事の眼目としての物故者供養塔建立の具体案を説明、元の財源たる拠金の応募経過と深甚なる謝意を披歴、特に本日は御遺族多数の参列を得て過去の大会にも数少い盛況を得た喜びを述べ、高畑会長は今大会の意義及び記念行事を特に徳とせられ祥竜寺の法要執行には並々な熱意と関心を寄せら

れて細目に到る迄配慮せられたる心情を語り全会員の熱誠なる協力に満腔の感謝を有する旨を表せられる。とりわけ語を強めて諸氏の健康留意を力説辰巳会の永久ならん事を希って降壇せられる。

次いで遺族を代表して鈴木治雄氏の謝辞があり鈴木商店の伝統辰巳会の淳風を称え世間にも類例のない本日の法要の意義への限りない謝意を述べられる。同じく楓喜和恵女史は全世界に旅して今も海外に迄残るお家様精神を謳歌し尽きぬ思い出と余徳を偲んであります

なく熱弁を述べられた。そして本日の白眉「大鈴木を語る」を主題して浅田長平氏登壇、同氏が鈴木商店へ入社の際、大神鋼の規模金子精神の実践から言及して今も神戸に残る「辰巳精神を説き時に懐慨に諸満堂を魅了せられる。

終って菅宗信師の発声にて一同乾杯饗宴に移りビールの満を引いて一しきり懇談がはずむ。高畑會長意気屯に揚り各テーブルを歴訪して参会の労をねぎらわれる。流石に四十周年記念と供養塔建立の幕開けにふさわしく初参加の遺族の御顔が多数揃われ特別な雰囲気

金子直吉翁のお墓詣りかたがた本場の土佐に行つて初榎をたらふく味つてこうとうというご計画も大賛成です。土佐の月の名所、桂浜には私どもの出資で経営している豪壮な「桂松閣」というグランドホテルがありますから、ここを根城にして鯛大尽の小松支部長以下土佐の辰巳会支部連中万事御世話していただきます。是非実行したいものです。

最後に立った浅田長老のお元気が工業界論には敬服しました。故金子さんも拍手を送っておられると思つて感慨無量でした。但し結論の労働問題では一寸一言。かつて終戦のとき浅田社長は「労働者は帯で集めるくらいありあまっている。これからはこの優待のための厚生部とか配給はいらぬから廃止する。」と断言されました。これに對し当時勤労、厚生部長であった私は断固として反対し、身をもってこれを守り之の責任を背負って自ら身を引いて土佐の辺境に都落ちした。今浅田さんのお説をきき乍ら當時を想起し、時勢の変遷とはいえないあと驚きいまして早くこれを予想してくれていたらなあとまた感慨を深くしました。

可憐な舞踊で華を添えられたのは鳴り止まぬ喝采が続いた。
午後三時過ぎ、さしもの盛會も柳田幹事発声の辰巳会万才を以て茲に名残り惜しくも閉会、再会を約して袂を分つたのであった。

附記 鈴木よね女史の像は昭和二十二年五月、高畑誠一氏施主となり一族関係者列席華々しく建立除幕式を挙げる、その後金属製の原像を供出、復元して現在に到る。碑文は祥竜寺先住職碧叟管禪師の筆、御像後方の石垣は高さ四米間口約三十米にして「鈴木よね女史贈」の石碑あり。金子、柳田両先人の彰徳碑は昭和二十二年、發起人田宮嘉右衛門氏他にて建立、他に楓英吉氏の墓、及び高畑誠一氏、永井幸太郎氏の持仏堂建立予定地あり。これ等に隣して鈴木商店在職物故者供養塔の建設予定企画中である。以上

御礼のうた

この度供養塔の建立を企画しましたところ多数の浄財を戴き深謝申し上げます。尚之等の締切はしておりませんので御未納の方はこの機に御厚志本部まで何卒ぞお寄せ下されば幸と存じます。

辰巳会幹事一同